

37 海岸地域の発展に寄与した遠州灘沿岸の斜め海岸林

静岡県（御前崎市・掛川市）



造成当時の様子（昭和10年）



現在の斜め海岸林



斜め海岸林造成地

○所在場所

静岡県御前崎市・掛川市

○施設、工法の概要

堆砂垣、人工砂丘、防風柵、クロマツ植栽

○解説

静岡県掛川市から御前崎市の沿岸においては、海岸線が東南東方向に湾曲しているため、激しい偏西風「遠州の空っ風」が海から吹き付け、また砂の粒径も小さいため、昔から飛砂に苦しめられていました。このため、地域の人たちは、江戸時代末期から斜めに海岸林を設けることで、強風や飛砂を海側に受け流し、環境が安定した後背地を利用してきました。

昭和7年からは県営事業として造成事業が開始され、現在では50km以上に及ぶ海岸林として、地域の発展に寄与しています。

斜め海岸林の造成技術は、自然の猛威を逆手に取り、防災と開墾を一体的に行う地域独自のものであり、国内唯一の大変貴重な景観となっています。